

Associé



おかげさまで 30 周年
No.34 / 2023.11



30 周年特別対談 ヘルパーの仕事語る

京都福祉サービス協会は、前身である「ホームヘルプサービス協議会」から、ヘルパーと共に発展してきました。法人化 30 周年の節目を迎える中、発足時から多くのヘルパーと関わってこられた宮路理事長と、介護保険以前の措置制度時代からヘルパーとなり、80 歳になるまで現役としてご利用者の在宅支援に携わり、退職された今も協会と繋がっているヘルパーOBの方との対談を企画しました。



かねこ

小西 包子 さん

1990 年から山科区を中心として、南部事務所、柳辻事務所、山科事務所で約 30 年にわたり活動される。2022 年 3 月退職。



田中 きく江 さん

1992 年から南区を中心に活動。2009 年にはヘルパー登録の傍ら、人材研修担当として勤務される。2017 年には生活支援サポーターとしても活動され、2020 年 3 月退職。



田中 みさを さん

1997 年から中京区を中心に、パートヘルパーとして、中央事務所、本能事務所、朱雀事務所で約 23 年活動される。2021 年 3 月退職。

【宮路理事長からのコメント】



私は常々、先輩の体験が後輩に受け継がれる組織であって欲しいと思っております。ヘルパーの文集をこれまで4冊作りました。その中に「利用者に 笑顔をもらい 自信つく」という一句があります。まさしくそんな体験を手がかりに、続けてこれたのではないのでしょうか。今回の3名は、ヘルパーという仕事を全うされいっばいの笑顔が印象的でした。「こんなにやりがいがあって楽しい」「人生の深掘りができ、これがなかったら人生はつまらなかった」といった体験談が、現役ヘルパーへのメッセージになればと思います。

ヘルパーになった動機 / 仕事をふりかえって



田中み 姑が入院していた時、病院の看護師から介護の方法を教わりました。ある時「手伝いましょうか?」と言ってからずっと教えてもらいながら介護しました。両親を二人とも見送ってから、せっかく教えてもらったことを何かに役立てられないかと思い、ヘルパーを始めました。最初のご利用者が、「あなたの笑顔がええなあ」言ってくださり、嬉しくなってしまう。それから頑張って80歳の定年になるまで勉強させてもらいました。お年寄りに教えてもらいました。それが楽しくやってこれたひとつだと思います。



田中き 最初はヘルパーの仕事をしよつか全然考えていなくて。夫と呉服の仕事をしてましたが、呉服が売れなくなってきて、何かできないかと考えていた時、「ヘルパー研修受講生募集」の市民新聞の広告を見て、応募してみようと思ったのがきっかけです。80~90年代の頃で、大勢で講義を受けていた時代でした。



小西 町内の回覧板で「介護の方法」を教えてもらえ案内があり、掲載元の保健所に申し込みました。その後、ヘルパーの募集があると知り、皆の勧めも

あって応募しました。ヘルパーの仕事は、生き甲斐と言うのか、毎日がとても楽しかった。ご利用者にお会いする、声をかけてもらう、「また来てね」と言ってもらうのが嬉しかったです。事務所から「行って」と言われたら、「はい!」と言って、夜でもバイクで走っていました。今でもやらせてもらえるのであればやりたいぐらいです。



つらかったこと / 印象に残ったご利用者



田中み つらかったという経験より、むしろ教えてもらうことが多かったです。複数のヘルパーが訪問、掃除の仕方の順番がきちんとあるご利用者がいました。ベッドに座って少しでも違うことがあると厳しく指摘されますが、ちゃん

と理屈に合っている。一緒に入っているヘルパーが「しんどい」と愚痴をこぼしたことがあり、私は「相手の言われている通りにする」「そういうやり方を言われているのだから、その通りにしたらそれほど楽なことではないよ」と言いました。



田中き 結局この仕事が大好きで、少々のことであってもつらいなど考えたことがなかったです。リウマチで、ヘルパーがちょっと触れると「痛い!」と怒られ、「何しにきているのか!」と蹴られるご利用者が次に訪問すると入浴されており、看護師がしっかり手を握って洗っていました。びっくりして目が点になりましたが、「痛みがないようにさえしてもらったらよい」ばかりと思っていたご利用者が、「いくら痛みがあってもお風呂に入りたい」「我慢してでもきれいにしてもらいたい」という気持ちが強いことを知り、「当たり前やなあ」と考えるようになりました。いつでも「自己満足にならない」ように「ご利用者がして欲しいこと

をしたいと心掛けました。それにはサービス提供責任者との連絡が大切だと思います。



小西 身体介護で訪問した寝たきりの方で、マヒがあり手足を動かすことができず、横にポータブルを置いても一人でできず、オムツ交換をしていました。介助する度に「こんなことをしてもらうのは悲しい」と言って涙を流されるので、私ももらい泣きしながら「そんなこと言わないで」と言って清拭までしました。帰るまで「ごめんね、ありがとう」と言われ、介護ができて良かったという思いで、泣きながら帰っていました。他には、マヒのあるお子さんの入浴をお手伝いさせてもらった時、二人で介助でしたが、衣類が濡れないように遠慮しながら介助しているとうまくいかないの、水着を持参して着替えて介助するようになりました。抱っこしながら一人は浴槽に入って介助するといった、ヘルパー同士で色々なアイデアを出し合いながらできていたのは良かったです。



ヘルパーに対して / 協会に対して期待すること



田中み ご利用者の気持ちになり、誠意を持って取り組んでもらいたいです。ヘルパーが来ている知り合いがありますが、掃除の仕方を頼んだら「ヘルパーのやり方があります」と言われたそうです。相手の気持ちを含むことが、一番大事だと思います。かつて、小さな事務所だった時、奥にヘルパーの部屋がありました。必ず顔を合わせて入るので、挨拶すると皆に通じて、声をかけてくれました。話しやすく、その頃の雰囲気良かったと思います。ヘルパーと職員の距離が近くあって欲しいと思

います。ヘルパーを大事にしてください。



小西 「ご利用者の気持ちになって」というのは大事なことです。ご利用者が希望しておられるよう、少しでも近づくように支援させていただくこと。帰る時にお互いが「良かったな」と笑顔になればいいですね。



田中き ご利用者から頼まれたことは、必ず早く連絡して対処してください。一生懸命やっても、ご利用者に伝わらない。頼まれていたことを調べているのなら、その連絡を入れておく。年を重ねると、私もそうですが“せっかち”になります。早く対応したら喜ばれます。これだけをお願いしたいです。



11月11日 数年ぶりに翠会（ヘルパーOB会）が開催されました その時の様子はHPで見られます

2023 年内定式



10月1日（月）、総合福祉施設修徳 4階にて、内定式を行いました。4月入職予定の9名の皆さんが内定証書を受け取られました。理事長の訓示では、30周年を迎える法人であり、今の時代に合うサービスの提供が求められていること、この仕事の魅力、仲間の大切さを話されました。最後は、皆さん一緒に記念撮影。最初は緊張した表情でしたが、最後には笑顔の写真になりました。

内定式のあとは、懇親会です。魅力発信チーム×ミライブプロジェクトのメンバーを中心に、先輩職員も一緒に楽しい時間を過ごしました。

3つのグループに分かれ、ランキングあてゲーム。ランキングの合計が21になるようにチームで考えました。話し合う時間も多く、色々な話もできました。内定者から「楽しい時間でした。先輩職員と話ができて良かったです。仕事の話も聞くことができ、イメージできました」と感想をもらいました。4月が楽しみです。



下坂厚の写真日記 11

記憶とつなぐ



1日の終わりに、明日への希望を願う。
 過ぎてしまったことをクヨクヨ考えていても仕方がない。明日は今日よりもっと良い日にしようと心がけたい。
 コップに注いだ水が半分ぐらいになったときに、「水がもう半分しかない」と考えるのか、「水がまだ半分もある」と考えるのかどちらを選んでも水の量は変わらないのなら、「まだ半分もある」と前向きに考える習慣を持ちたいと思う。

Instagram は QR コードを scan



ATSUSHI_SHIMOSAKA



福祉の世界に身を置いていると、ケアをする、介護をすると言いながら、つい相手と向き合う関係になってしまう。
 あなたの大変なことを何とかしてあげようと対面してしまう。対面な関係は大事だけど、ともすれば強者と弱者に分かれてしまう。
 そうではなくて、並んで座る。同じところに並んで同じ方向を見る。同じ未来を描く。この関係が大事なんだと思います。
 地域で共に暮らすということも、こういうことではないでしょうか。向き合って相手を威圧するのではなくて、同じ方向を見て同じ未来を見るということができれば良いですね。



地域共生社会推進フォーラム開催！



今年のゲストは「社会的処方」の著者で、医師の西先生。社会的処方とは「お薬」で人を健康にするのではなく、「地域とのつながり」で人を元気にする仕組みのこと。

西先生は川崎のまちで気軽に相談ができる「暮らしの保健室」の実践をされています。後半は、社会的処方のタネになるような、職員の皆さんがもつ、小さなかわりのエピソードをラジオのよ

うに紹介。ラジオパーソナリティは、おなじみの福富先生です！さらに、フォーラム終了後にも、すべての協会職員の皆さんの「小さなエピソード」を、ドーンと募集するキャンペーンを計画中です！ケアの仕事の中にある人と人のかかわりは、ちょっとしたことだけど、とても大事なことです。

「あなたの活動の一つひとつが、誰かにとっての『お薬』になる」

第1部

まちどのつながりが
孤立を癒す薬になる。

12.15 2023年 (金)
14:10-15:15

京都府立京都学・歴史館 (大ホール)

講演

西智弘 さん
(一社)プラスケア代表理事

川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンター、腫瘍内科/緩和ケア内科医長。また一方で、一般社団法人プラスケアを2017年に立ち上げ代表理事に就任。「暮らしの保健室」「社会的処方研究所」の運営を中心に、地域での活動に取り組む

第2部

協会ラジオ

小さな想いからはじまるものがたり

1日限りの出張ラジオ局を開設。サービス協会の職員の皆さんの「かわりエピソード」をラジオ形式でご紹介。

DATE 2023.12.15 FRI
TIME 15.25-16.25

JOIN NOW

DJ: 福富昌城
花園大学 社会福祉学部 教授

GUEST: 西智弘
一般社団法人 プラスケア代表理事

ASSISTANT: 杉本志保
笑顔とふれあいのまちづくり

